

各交通モードの年度別輸送実績

九州運輸局
令和4年9月30日

運輸と観光で九州の元気を創ります

<お問い合わせ先>
九州運輸局交通政策部交通企画課
榊、明受
電話：092-472-2315
国土交通省九州運輸局HP
<https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>



九州運輸局

九州運輸局管内の輸送実績の動向

- 令和3年度の輸送実績について、上半期は、福岡や熊本を中心とした移動の自粛要請の影響から、昨年度に引き続き、低い水準にとどまった。また、下半期は、感染状況が落ち着いたことにより、年末年始にかけて大きな回復傾向が見られたが、1月中旬以降は、オミクロン株の流行により再び減少に転じた。
- 結果として、令和元年度の水準には及ばなかったが、コロナウイルスの流行から1年あまりが経過し、新しい生活様式が浸透しつつあり、コロナウイルス感染拡大による輸送実績の減少幅は前年よりも小さくなっている。
- 旅客船事業（長距離フェリー・主要離島航路）は、旅客輸送・自動車航送のいずれも前年度より回復しているが、対令和元年度比で見ると、長距離フェリー・主要離島航路いずれも自動車航送は約93%まで回復している一方、旅客輸送は約59%に留まっている。
- 陸上交通（バス・タクシー・鉄軌道）も前年度よりやや増加しているが、いずれも対令和元年度の8割に満たない水準となっている。特に観光需要の影響が大きい貸切バスや高速バスは、他のモードよりも低い水準に留まっている（令和元年度比：貸切バス約51%、高速バス約44%）。

バス事業（一般乗合バス）

3.23億人

（前年度比101.5%）
（R1年度比75.1%）

鉄軌道事業（全体）

5.22億人

（前年度比107.2%）
（R1年度比76.4%）

旅客船事業（長距離フェリー航路）

93万人、111万台

（前年度比129%、110.9%）
（R1年度比59.4%、92.9%）

タクシー事業

9968万人

（前年度比110.4%）
（R1年度比66.7%）

鉄軌道事業（JR九州）

2.68億人

（前年度比106.6%）
（R1年度比79.3%）

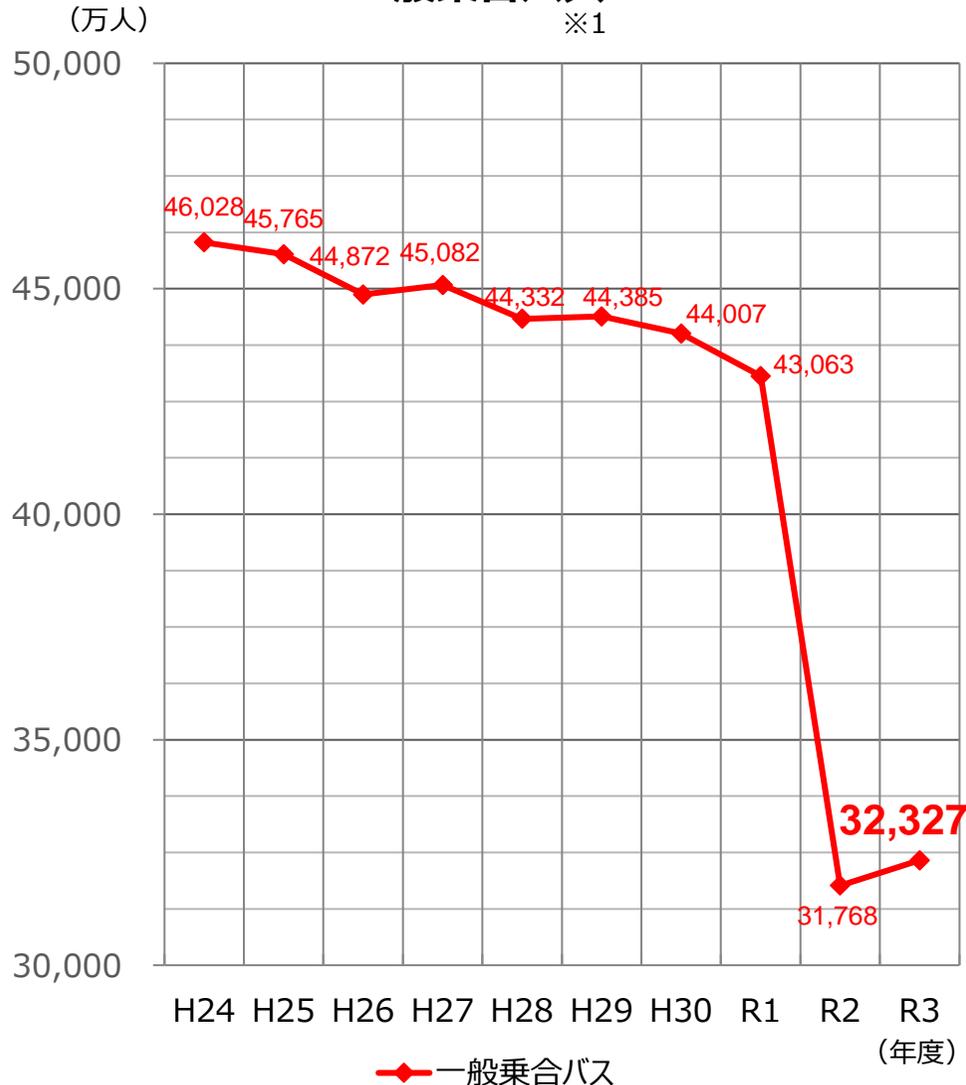
旅客船事業（主要離島航路）

193万人、23.5万台

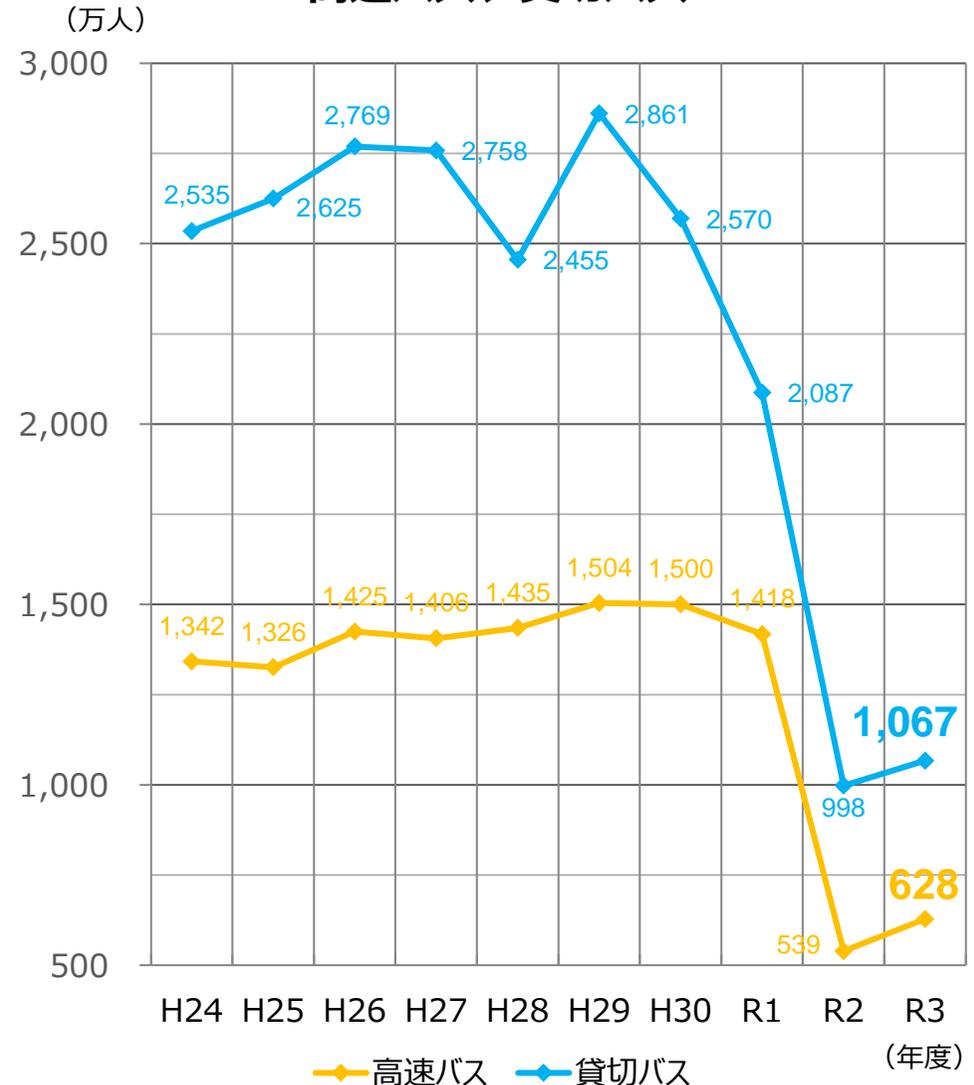
（前年度比110.9%、109%）
（R1年度比59.1%、92.6%）

一般乗合バス

※1

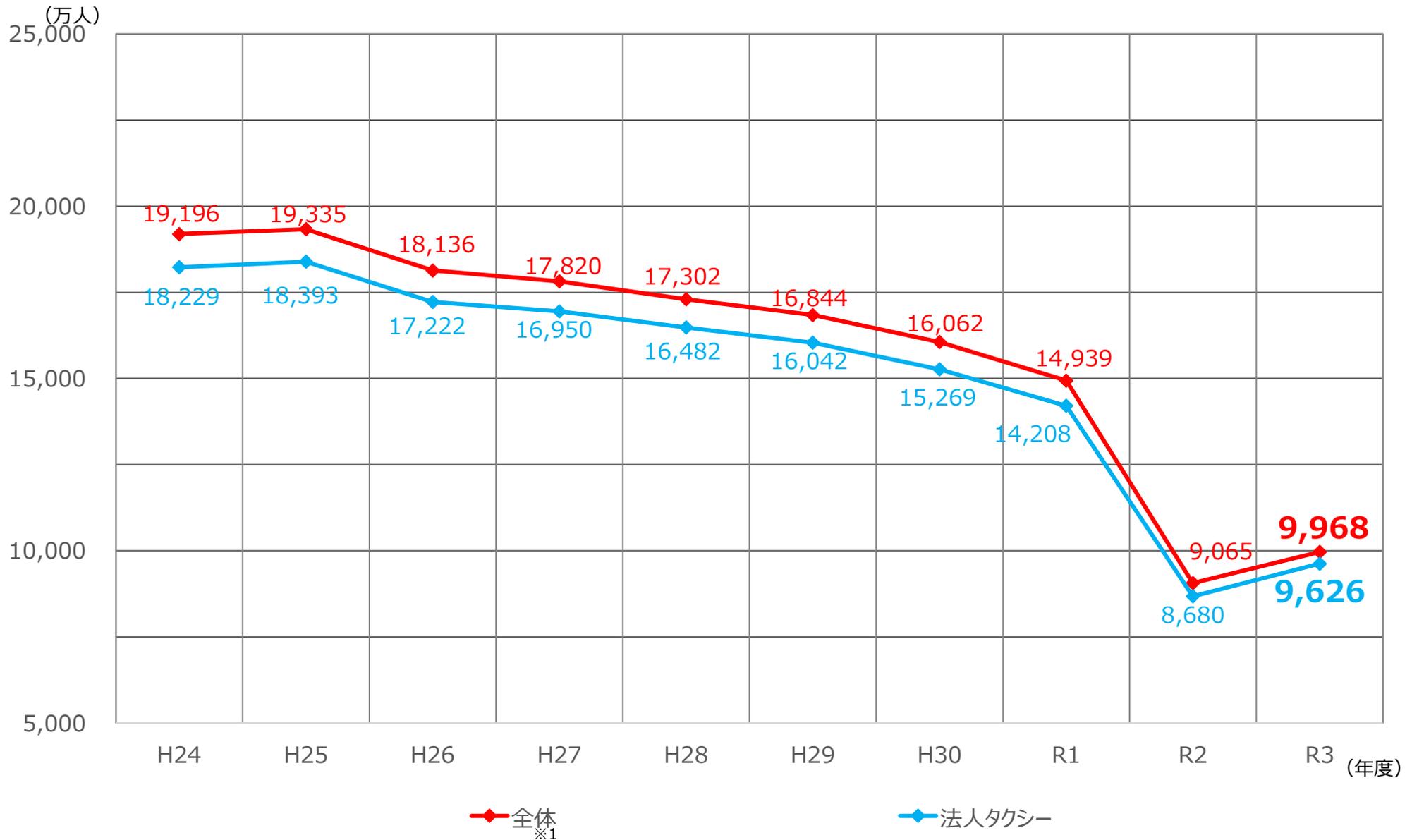


高速バス、貸切バス



※1 「一般乗合バス」とは、路線バスのうち、高速バス（高速道路を利用して、概ね50km以上走行するもの）を除いたもの。

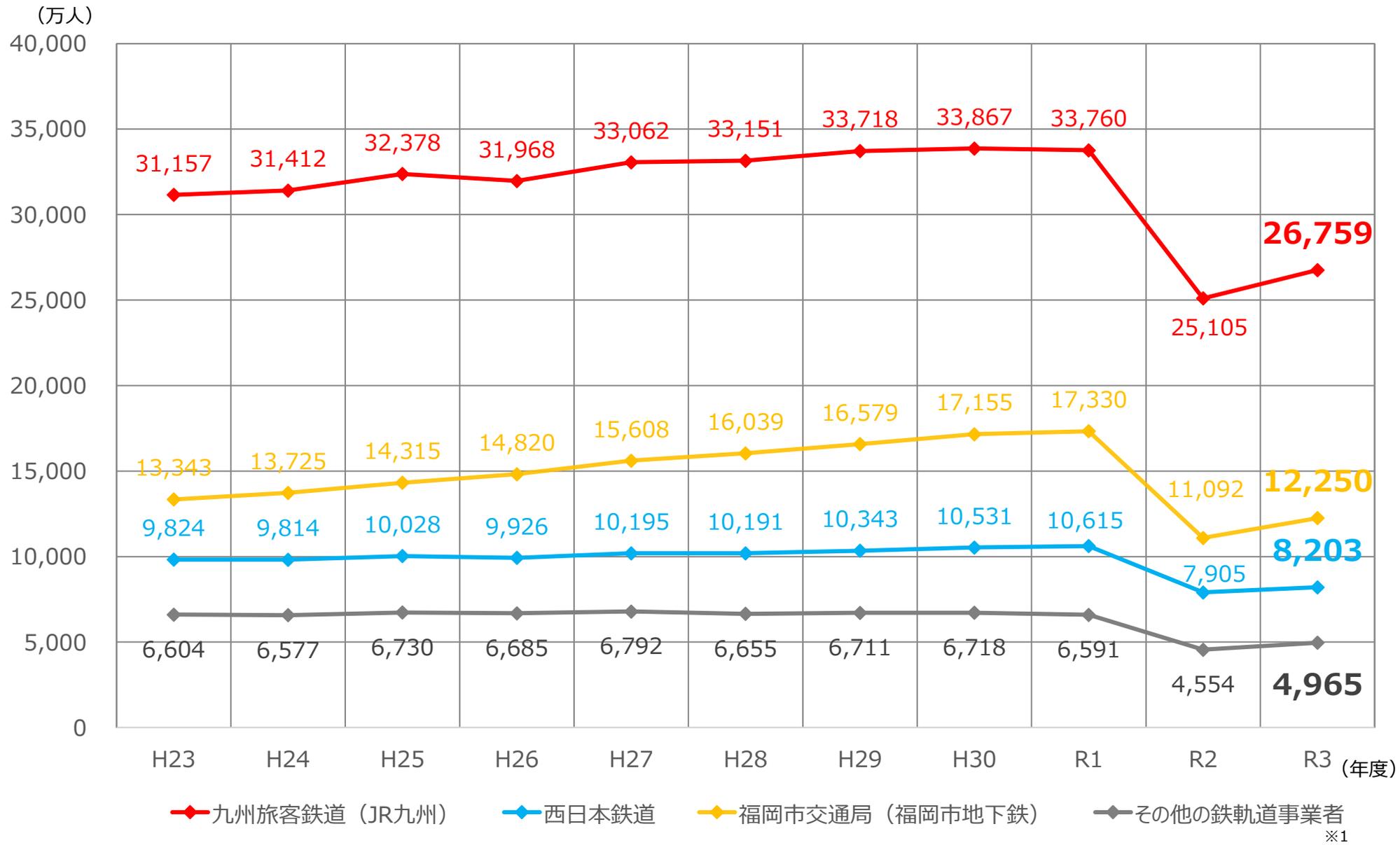
※2 R3年度の輸送実績は一般乗合バス、高速バス、貸切バスともに速報値。



※1 「全体」には、法人タクシーの輸送実績のほか、いわゆる「個人タクシー」の輸送実績を含む。

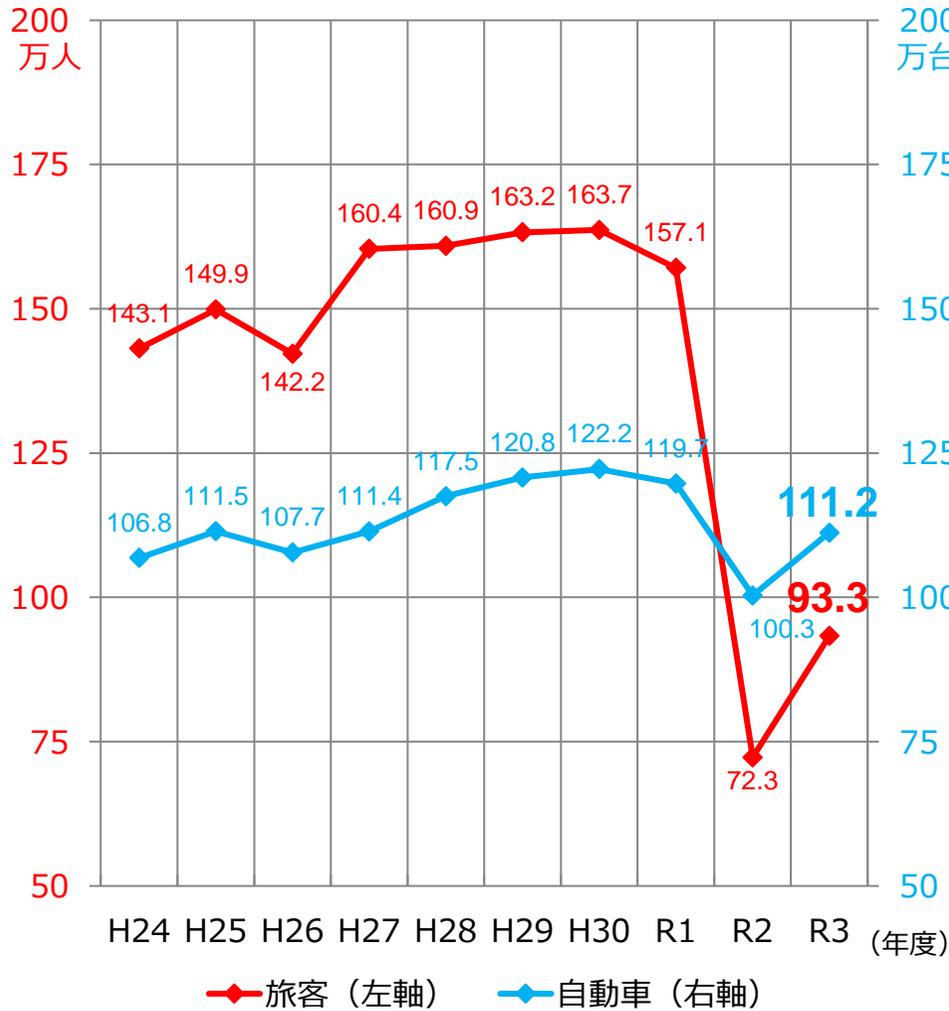
※2 R3年度の輸送実績は速報値。

九州の鉄軌道事業の輸送実績

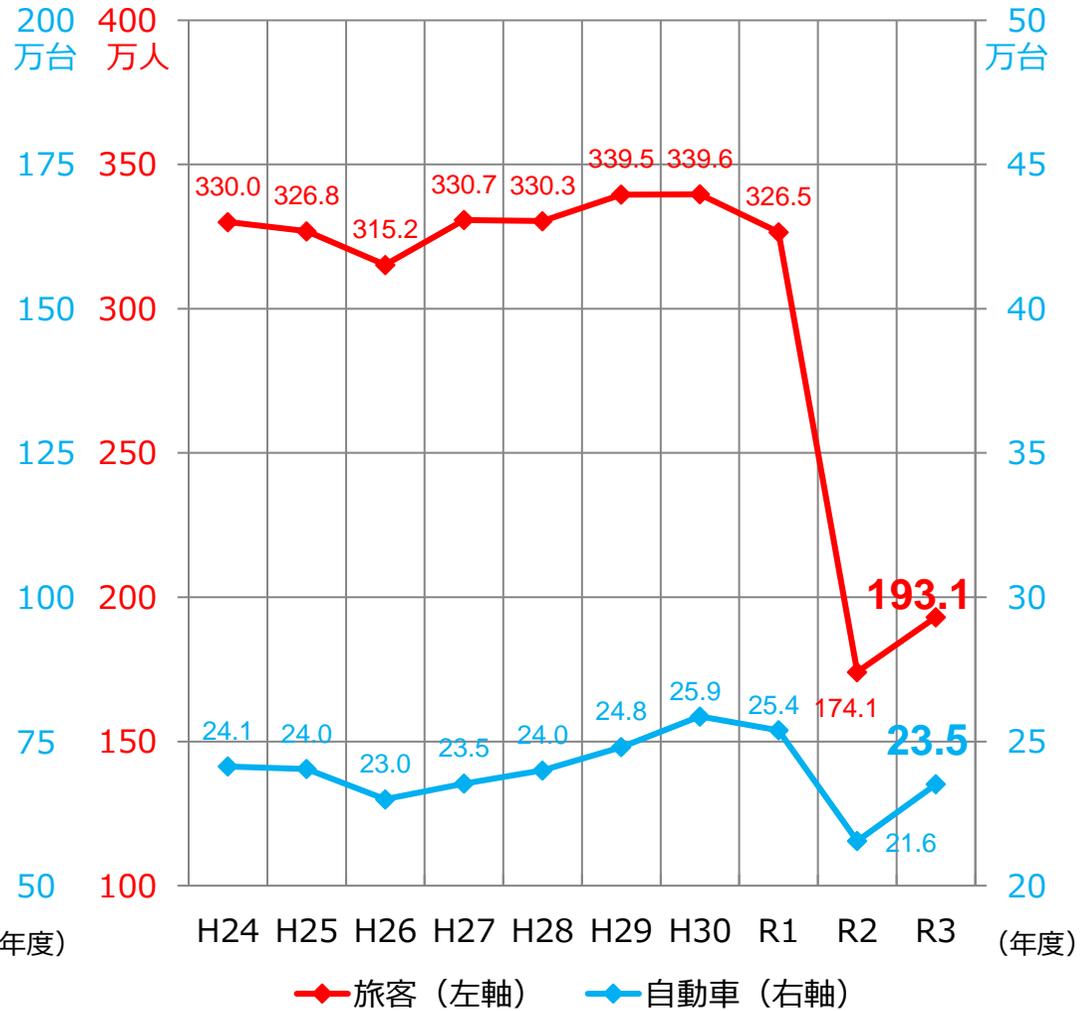


※1 「その他の鉄軌道事業者」とは、次の13社の合計値。(筑豊電気鉄道、島原鉄道、熊本電気鉄道、甘木鉄道、南阿蘇鉄道、松浦鉄道、平成筑豊鉄道、くま川鉄道、肥薩おれんじ鉄道、北九州高速鉄道、長崎電気軌道、熊本市交通局、鹿児島市交通局)

長距離フェリー航路 ※1



主要離島航路 ※2



※1 「長距離フェリー航路」とは、陸上輸送のバイパス的な旅客フェリーで片道の航路距離が300km以上の航路をいい、阪九フェリー、名門大洋フェリー、オーシャントランス、東京九州フェリー、フェリーさんふらわあ及び宮崎カーフェリーの6社9航路が該当。」

※2 「主要離島航路」とは、壱岐、対馬、五島列島、甕島、種子島、屋久島、奄美群島又は沖縄本島と本土を結ぶ航路をいい、12社16航路が該当。